



学校だよりNO43 令和5年 3月13日 児童数 487人

薫っ子Ⅱ



文責 校長 古川 次男

あれから、12年経ちました

先週の金曜日、昼のテレビ放送で、
「今日は東日本大震災について、お話をします。
この時計は2時46分を指しています。何の時間か分かりますか？」

今から12年前の、2011年3月11日の午後2時46分に、東日本大震災がおきました。～」
と、本校教頭が子どもたちに語りかけました。

考えてみると、6年生でさえ生まれたばかりですから、小学生の子どもたちにとって、記憶があるかないかを尋ねたら、ほとんどの子はないと答えることでしょう。それほど年月が経ってしまったのですね。

先週の土曜日は、13年目の「3.11」でした。中学校の卒業式が午前中にあり、中学校の卒業生が小学校で担任していただいた先生の所に来て、思い出話に花を咲かせて帰っていった頃に、この地震は発生しました。

当時、私は西田地区の小学校に勤務しており、3学年の下校指導をしていました。

子どもたちに「さようなら。」と、あいさつをしようと思ったときに、大きな揺れが襲ってきました。2階ということもあり、そうとうの揺れを感じました。「早く終われ。早く揺れが収まってくれ。」と、何度も思いました。また、空が真っ暗になり、吹雪にもなってきました。「この世の終わりか。」と、一瞬思えるほどでした。3学年であるので、泣き出す子もいるほどでした。揺れが収まった後も、停電のため校内放送は使うことができず、口頭で各学年の児童の安全を確認して回りました。

しばらくすると、心配した保護者が続々と子どもたちを迎えに学校に来てくれました。お母さんの顔を見てほっとする子どもたちの顔が今でも印象として残っています。

当時教頭であった私は、念のために、学校に泊まることとしました。避難所にはならなかったのですが、校長と一緒に1週間ほどは学校に詰めていました。そんな私たちに、地域の方々が心配して、3食届けて下さったことが、つい昨日のここのように思い出されます。浜通りから避難してくる方に、道を尋ねられたこともありました。ご苦労なさっている方が、多くいるのだなと改めて感じさせられました。

停電や水道から水が出ないこと、食料品等の不足やガソリンスタンドでの給油待ちの車列。今思い出しても、当時の苦労が思い出されます。

津波被害や建物の倒壊によって被害を受けた方々、さらには、原子力発電所の事故で避難等をしている方々の苦労に比べれば、私の苦労などはたいしたことないと思います。

「3.11」という日のことを語り伝えていくことは、経験した我々の責務ではないかと思います。これからも、ずっと。

